

### 第34回（2018年度）マツダ研究助成一覧 – 青少年健全育成関係 –

研究題目および研究概要	研究代表者 (*役職は応募時)	助成金額 (万円)
必修化されたダンス表現における創作メカニズムの解明とその支援手法の提案： 他者との交流に着目した検討	清水 大地 東京大学大学院 教育学研究科 特任助教	60
本研究では、必修化されたダンス授業における創作支援の手法の提案を目指す。2012年より義務教育に導入された「現代的なリズムのダンス」では、その主目的である生徒の創作体験を支援する具体的・科学的手法は十分に提案されておらず、ダンス経験の少ない体育科教員の試行錯誤に基づいた指導（主に振り付け指導）が行われているのが現状である。本研究では、他者との交流に着目し、創作支援の具体的手法の提案を目指した。特に他者の表現の理解・解釈が重要であると考え、それらに多様性をもたらす手法を提案する。		
高等学校におけるセクシュアル・マイノリティの生徒への支援に関する調査研究	本多 明生 静岡理科大学 情報学部 准教授	55
研究代表者と共同研究者は、我が国の小学校と中学校におけるセクシュアル・マイノリティ支援の実態と課題を全国調査によって明らかにしてきた。本研究では、学校住所録から無作為抽出した全国の高等学校1600校を対象に質問紙調査を実施することによって、我が国の高等学校におけるセクシュアル・マイノリティ支援の実態と課題を明らかにする。これまでの研究成果と統合することで、本研究からは、学校におけるセクシュアル・マイノリティへの支援の充実に向けた具体的で実践的な知見が得られる。		
乳幼児期子育てにおける「こどもの憤怒・反抗」に対峙する養育者への支援	大橋 良枝 聖学院大学 心理福祉学部 教授	90
子育て中の母親が孤立する現代的な理由の1つに、青年期精神発達の未熟性から子供や自分の怒りを回避する群の増加がある。研究代表者らは自らの怒りに向き合い表現することが、孤立状態から脱し主体性や自尊心を取り戻すのに寄与するのをこれまでに見出してきた。本研究ではそれらの知見を活かし、乳幼児期子育ての中で困難を感じながらも不必要に孤立している青年期心性の強い母親たちを支援に繋ぎ、同時に精神的成熟に導くプロセスを「怒り」の視点から描くことを目的とし、複数事例研究及び実験的事例研究を行う。		
地域の資源を活用した問題発見・解決型「木育」プログラムの開発	木村 彰孝 広島大学大学院 教育学研究科 准教授	80
本研究では、木材・森林教育に関連する地域資源を活用し、小学校4～6年生の社会教育としての問題発見・解決型「木育」プログラムを開発する。開発する木育プログラムでは、木材に親しむ・知る・活かす活動の相互の繋がりを持たせ、単にものづくりを行う活動ではなく、ものづくりを通して木育の理念に含まれる問題発見・解決力を育成する。本研究を通して、未来を担う子どもたちに求められる資質・能力のうち、生活や社会の問題を発見し解決する能力と態度を「木育」を通して育成することを目指す。		
学童に対する感染症予防教育の効果検証	大浦 麻絵 札幌医科大学 医学部 助教	60
小学校においては感染症が発生した際、学級閉鎖等を行うことで感染拡大防止対策を行うことが出来る。しかし学級閉鎖措置を受けた小学生は潜伏期間の危険性があるにもかかわらず、長時間の学童保育を利用しないといけなのが現状である。そこで我々の研究班では学童を利用する児童が感染症から自分で身を守るために必要なエビデンス（科学的根拠）を身につけることを目的とした感染症予防教育を行い、その効果、継続性を検証する。また教育の一つの効果として子から親への教育情報伝搬効果を検証する。		
小中学校の通級指導教室における発達障害児のための空間的配慮に関する研究	佐々木 伸子 福山大学 工学部 准教授	55
障害者差別解消法の施行によって、公的機関での合理的配慮の提供が義務となり、発達障害を持つ児童生徒が通常学級に在籍しながら個別の支援を受ける通級指導教室の設置が急速に広がっている。しかし、多くは空き教室を利用した設置で、通級指導のための空間整備基準は定められておらず、発達障害への対応は試行錯誤の段階である。本研究は、現在設置されている通級指導教室の指導内容と空間の使われ方を調査することによって、通級指導教室に必要な建築空間的条件を明らかとし、設備空間ガイドラインの作成を行う。		
合 計 6件	400	